



フタバ給食株式会社

2023年度 環境経営レポート (2023年9月 ～ 2024年8月)



Cut down CO₂

食品リサイクル優良事業者



作成日：2024年 9月20日
更新日：2024年10月10日





CONTENTS

PAGE NO.

ごあいさつ	3
環境経営方針	3
組織の概要	4
SDGsの取組（取組対象と内容）	5
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	7
主な環境負荷の実績	8
環境経営目標及びその実績	8
環境経営計画の取組結果とその評価	9
もうひとつのSDGsの取組	12
環境関連法規等の遵守状況の確認 及び 評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	13
緊急事態対応訓練	13
代表者による全体の評価と見直し・指示	14
これまでの環境活動の紹介	15





ごあいさつ

フタバ給食株式会社は、お客様に食堂を通じて、美味しさと楽しさを提供しています。お客様の食の安全、安心への関心は高まっており、この“安全と安心”を確保することが最重要課題となっています。

また、ますます深刻化する地球温暖化や、貴重な食糧資源や地下資源を大切に使うことが人類共通の重要な課題であることを踏まえ、事業活動における環境負荷の低減を図るために、全社一丸となって自主的・積極的に、環境保全活動に取り組めます。

代表取締役社長 井上 清司



環境経営方針



社 是

1. 人の和を基本に心と力を合わせて仕事に打ち込む。
1. 常に清潔を保ち衛生管理には完全を期す。
1. 誠実公明を旨とし喜ばれる「食」で社会に奉仕する。
1. 様々な角度から「食」を見、創意研究を続ける。
1. 使命の達成には力闘し、一筋に貫き通す。

環 境 経 営 方 針

フタバ給食株式会社は、お客様に食堂を通じて、美味しさと楽しさを提供しています。お客様の食の安全、安心への関心は高まっており、この“安全と安心”を確保することが最重要課題となっています。

また、ますます深刻化する地球温暖化や、貴重な食糧資源や地下資源を大切に使うことが人類共通の重要な課題であることを踏まえ、事業活動における環境負荷の低減を図るために、全社一丸となって自主的・積極的に、環境保全活動に取り組めます。

<環境保全への行動指針>

1. 具体的に次のことに取り組めます。

- ① 電力・都市ガスの消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
 - ② 食品廃棄物リサイクルの推進
 - ③ 工程の改善等による水の効率使用
 - ④ 自動車燃料（ガソリン・軽油）の使用量削減
 - ⑤ 地域への美化活動の推進
 - ⑥ 自らが生産・販売・提供する給食サービスに関する環境配慮
 - ⑦ 独自の調理方法（サテライトクック）による生産性の向上と働き方の改善
- （※ PRTR制度の対象物質の使用はありません）

これらについて環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

2. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
3. 環境への取り組みを環境経営レポートとしてとりまとめ公表します。
4. 環境方針は、全社員へ周知します。

食品リサイクル優良事業者



制定日：2008年 5月14日

改定日：2022年 5月20日

フタバ給食株式会社

代表取締役

井上清司



組織の概要

更新日：2023年10月1日

- (1) 事業者名及び代表者名
フタバ給食株式会社
代表取締役 井上 清司

- (2) 所在地
本 社：大阪府八尾市久宝寺3丁目4番17号
(資材倉庫)：大阪府八尾市久宝寺3丁目8番4号ー103(無人)

- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 専務取締役 井上 智雄 TEL 072-991-0357
担当者 常務取締役 井上 貴博 TEL 072-991-0357

- (4) 事業内容(認証・登録の範囲)
サ イ ト：本社、資材倉庫(各拠点は給食委託につき、サイトは含まず、活動のみ含む)
活 動：給食の製造及び食堂の受託運営

450年以上(※)
歴史のある
久宝寺寺内町で
創業以来62年目
になりました！
(※ 八尾市HP参照)

活動拠点一覧表

	事 業 所 名	従業員数	延床面積
1	本社	38 人	289 m ²
2	本社資材倉庫(無人)	0 人	30 m ²
3	堺食堂	14 人	240 m ²
4	淀川食堂	5 人	120 m ²
5	幸町食堂	6 人	200 m ²
6	本郷食堂	1 人	45 m ²
7	津堂食堂	2 人	23 m ²
8	片山町18食堂	1 人	39 m ²
9	片山町12食堂	2 人	25 m ²
10	貝塚食堂	5 人	70 m ²
11	本町食堂	1 人	26 m ²
12	竹濑食堂	2 人	21 m ²
13	神武町食堂	1 人	32 m ²
14	宮町食堂	1 人	30 m ²
15	金物町6食堂	1 人	42 m ²
16	金物町5食堂	1 人	13 m ²
17	加美食堂	3 人	300 m ²
18	老原9食堂	2 人	46 m ²
19	登美ヶ丘食堂	4 人	40 m ²
20	鴻池食堂	3 人	73 m ²
21	こころ食堂	5 人	25 m ²
22	池沢町食堂	1 人	725 m ²
23	新家町食堂	1 人	100 m ²
24	柏田食堂	2 人	100 m ²
25	北港食堂	2 人	50 m ²
26	跡部南の町食堂	1 人	50 m ²
	合 計	105 人	2,654 m ²

- (5) 事業の規模
製品出荷額(全社) 4.4 億円
主要製品生産量(全社) 291.0 トン

- (6) 事業年度 9月～8月 ※このレポートに記載している 2023 年度とは 2023 年 9月～ 2024 年 8月を指す



SDGs 17の目標		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
フタバ給食の 取組対象:○						○	○	○	○			○	○	○	○		○		
対象となる 目標(ゴール)	対 象 と な る ターゲット									対 象 の 根 拠 ・ 取 組 内 容									
	No.	内 容																	
5 ジェンダー平等を 実現しよう 	ゴール5 ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う																		
	5.1	あらゆる場所における全ての女性及び女児に対するあらゆる形態の差別を撤廃する。									当社の従業員の8割(所属人数)が女性です。女性が働きやすい職場づくりをし、能力を発揮できるようにすることが当社の発展にもつながります。具体的には、子育て等で勤務を休む人へのフォロー、力仕事を誰でも出来るように工夫する、短時間勤務でも出来る形での技能教習による、高品質の商品の生産などであります。また勤務形態を柔軟に対応することにより、勤務満足度の向上をはかってまいります。								
	5.1	人身売買や性的、その他の種類の搾取など、全ての女性及び女児に対する、公共・私的空間におけるあらゆる形態の暴力を排除する。																	
	5.4	公共のサービス、インフラ及び社会保障政策の提供、並びに各国の状況に応じた世帯・家族内における責任分担を通じて、無報酬の育児・介護や家事労働を認識・評価する。																	
	5.5	政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。																	
	5.c	ジェンダー平等の促進、並びに全ての女性及び女子のあらゆるレベルでの能力強化のための適正な政策及び拘束力のある法規を導入・強化する。																	
6 安全な水とトイレ を世界中に 	ゴール6 すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する																		
	6.3	2030年までに、汚染の減少、投棄の廃絶と有害な化学物・物質の放出の最小化、未処理の排水の割合半減及び再生利用と安全な再利用の世界的規模で大幅に増加させることにより、水質を改善する。									食品製造業として、水資源を使用・排出しています。エコアクション21の活動による、水使用量削減と排水の汚濁防止に日々つとめています。								
	6.4	2030年までに、全セクターにおいて水利用の効率を大幅に改善し、淡水の持続可能な採取及び供給を確保し水不足に対処するとともに、水不足に悩む人々の数を大幅に減少させる。																	
7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 	ゴール7 すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する																		
	7.3	2030年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。									照明のLED化の推進、営業車のハイブリッド車の使用など少しずつ進めております。								
8 働きがいも 経済成長も 	ゴール8 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する																		
	8.5	2030年までに、若者や障害者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一労働同一賃金を達成する。									老若男女を問わず、働きやすい職場づくりを行い、能力を発揮していただくことが会社の発展にもつながります。また、今後ますます増えていく高齢者でもできる力仕事を工夫しております。同時に聴覚にハンデを持つ方、外国出身の方の雇用も現在行っており、活躍していただいております。								
	8.7	強制労働を根絶し、現代の奴隷制、人身売買を終らせるための緊急かつ効果的な措置の実施、最悪な形態の児童労働の禁止及び撲滅を確保する。2025年までに児童兵士の募集と使用を含むあらゆる形態の児童労働を撲滅する。																	
	8.8	移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、全ての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する。																	

SDGs 17の目標	1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 健康と長寿を促す	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に	7 持続可能なエネルギーを	8 豊かさをみんなに実感	9 産業と雇用を創出	10 人や国ごとの格差をなくす	11 住み続けられるまちづくりを	12 持続可能な消費を	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナーシップで目標を達成しよう
フタバ給食の 取組対象:○					○	○	○	○			○	○	○	○		○	

対象となる 目標(ゴール)	対 象 となる ター ゲ ャ ッ ト		対 象 の 根 拠 ・ 取 組 内 容
	No.	内 容	
11 住み続けられる まちづくりを 	ゴール11 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する		
	11.6	2030年までに、大気の水質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。	給食は例えば100人分をまとめて調理いたしますので、その100人がそれぞれ家で料理をする場合の電気・ガス・水の使用量および食品廃棄物の量に比べて少なく済みますので、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減していると考えております。
12 つくる責任 つかう責任 	ゴール12 持続可能な生産消費形態を確保する		
	12.3	2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食品ロスを減少させる。	過去の販売実績データに基づいて食材の準備量を調整して、ムダな食品ロスを減らしております。また、4割程度のお客様にはご予約をいただき、お客様が食べたかったメニューを食べて頂くと同時に、ムダなメニューの準備(食品ロス)を削減しております。今後もご予約の割合を増やして廃棄を減らすよう取り組んでまいります。
	12.5	2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。	
13 気候変動に 具体的な対策を 	ゴール13 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる		
	13.3	気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。	エコアクション21にて電力・ガス・水・自動車燃料の使用量・廃棄物排出量の把握と削減に取り組んでおります。
14 海の豊かさを 守ろう 	ゴール14 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する		
	14.1	2025年までに、海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する。	ゴール6での内容と同じです。
16 平和と公正を すべての人に 	ゴール16 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する		
	16.1	あらゆる場所において、全ての形態の暴力及び暴力に関連する死亡率を大幅に減少させる。	公正に運営していくことが、企業の継続的な発展(Sustainable Development)、ひいては当該ターゲットへの取組につながると考えております。
	16.7	あらゆるレベルにおいて、対応的、包摂的、参加型及び代表的な意思決定を確保する。	



1 貧困をなくそう 2 飢餓をゼロに 3 健康と長寿を促す 4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を実現しよう 6 安全な水とトイレを世界中に

TFT事務局様より、堺食堂での取組についての感謝状を頂きました！
TFTとは何か、食堂での取組につきましては12ページをご覧ください！





Thank you for your TABLE FOR TWO

いつも温かいご支援をいただきありがとうございます
お寄せいただいたご支援により、親類や栄養不足にさらされているアフリカ・アジアの多くの子どもたちに温かい食事と未来への希望を届けることができました。

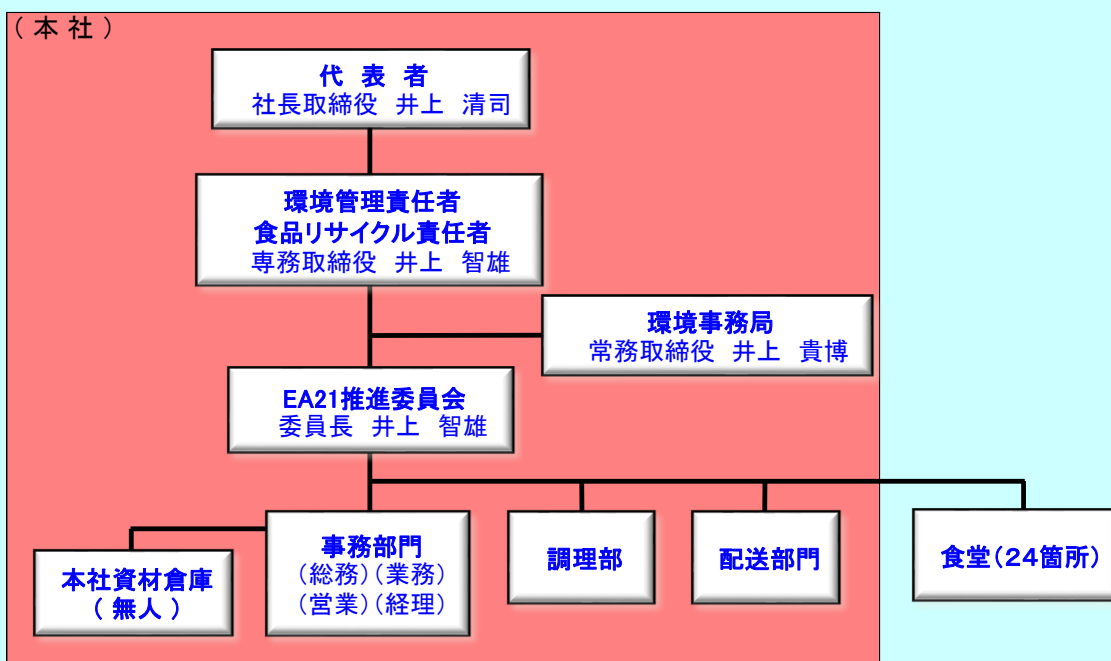
グリーンフロント堺様
2022 年ご寄付金額: 138,240 円
6,912 食分の学校給食になります

TABLE FOR TWO



(認証登録範囲)

(本 社)



役 割 ・ 責 任 ・ 権 限	
代表者(社長)	- 環境経営に関する統括責任 - 実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 - 環境管理責任者を任命 - 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 - 環境目標・環境活動計画書を承認 - 代表者による全体の評価と見直しを実施 - 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	- 環境経営システムの構築、実施、管理 - 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 - 環境目標・環境経営計画書を確認 - 環境活動の取組結果を代表者へ報告 - 環境経営レポートの確認
環境事務局	- 環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 - 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 - 環境目標・環境経営計画書原案の作成 - 環境活動の実績集計 - 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 - 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 - 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 - 環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
EA21推進委員会	- 環境経営計画の審議 - 環境活動実績の確認・評価
部門長	- 自部門における環境経営方針の周知 - 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 - 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 - 自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 - 自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 - 試行・訓練を実施、記録の作成 - 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	- 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 - 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加



主な環境負荷の実績

(全社〔※1〕)

項 目	単位	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量(※2)	kg-CO ₂	155,827	114,411	104,567
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	トン	61.79	61.40	35.39
産業廃棄物排出量		105.20	98.65	104.94
食品廃棄物				
発生量	トン	60.61	60.60	34.58
発生抑制量		126.00	129.00	131.61
再生利用量		2.93	2.90	3.71
熱回収量		0.00	0.00	0.00
減量量		0.00	0.00	0.00
再生利用以外の量		0.00	0.00	0.00
廃棄物処理量		57.68	57.70	30.88
食品再資源化実施率	%	70.2%	70.6%	81.4%
水使用量	m ³	9,231	6,443	5,804

※ 二酸化炭素排出係数 0.418 kg-CO₂/kWh 電力会社の調整後の係数 H29 年度実績

※1 負荷の把握可能な本社の集計値

※2 環境目標に含まれないLPG等の数値を含む



環境経営目標及びその実績

※ 負荷の把握可能な本社のみ目標設定
(本社)

項目	年度	基準値	2023			2024	2025
		(基準年度)	(目標)	(実績)	評価	(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減 (二酸化炭素排出量削減)	kg-CO ₂	30,159	29,858	29,083	○	29,556	29,254
	基準年度比	2022	99.0%	96.4%		98.0%	97.0%
原単位(売上高当たり)	kg-CO ₂ /千円	0.065	0.066	0.066	×	—	—
都市ガスによる二酸化炭素削減 (二酸化炭素排出量削減)	kg-CO ₂	41,636	41,220	36,647	○	40,803	40,387
	基準年度比	2022	99.0%	88.0%		98.0%	97.0%
原単位(売上高当たり)	kg-CO ₂ /千円	0.090	0.089	0.084	○	—	—
自動車燃料による二酸化炭素削減 (二酸化炭素排出量削減)	kg-CO ₂	42,585	42,159	38,747	○	41,734	41,308
	基準年度比	2022	99.0%	91.0%		98.0%	97.0%
原単位(売上高当たり)	kg-CO ₂ /千円	0.092	0.091	0.088	○	—	—
二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	114,381	113,237	104,477	○	112,093	110,949
食品廃棄物の再資源化率の向上 (全社)	%	20.0%	51.0%	81.4%	○	53.0%	55.0%
		2007					
水道水の削減 (排水量削減)	m ³	6,443	6,379	5,804	○	6,314	6,250
	基準年度比	2022	99.0%	90.1%		98.0%	97.0%
原単位(売上高当たり)	—	0.014	0.014	0.013	○	—	—
給食サービスへの環境配慮	—	—	食材の地産地消の推進 業者への通函納品要請 再使用可能な食器使用推進			○	サービス内容の 検討・追加・計画・実施
生産性の向上と働き方の改善	—	—	チルドレンシブの開発 チルド調理による就業時間の 改善(検討)			○	チルド調理による稼働率、 生産性の改善(検討) コミュニケーションによる 人財育成
地域への美化活動の推進	回/月	会社周辺の清掃 関係会社の清掃活動参加	毎月1回	毎月1回	○	毎月1回	毎月1回



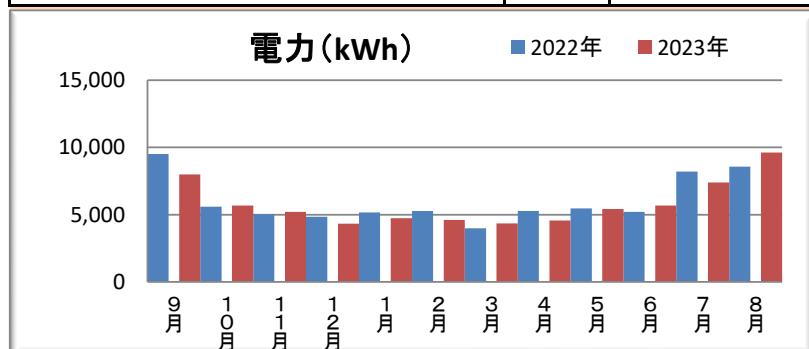
環境経営計画の取組結果とその評価



数値目標：○達成 ×未達成

活動：◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価
数値目標	○	前年の電気使用量を超える月や、原単位で6月・8月と未達成の月はあったものの、年間を通しては使用量・原単位ともに目標値を達成できており、上半期の評価でも述べたが、電気使用量と原単位は、こまめに不要エリアの照明を切ったりしているので、節電できているようだ。この調子でいきたい。
省エネ目標説明	○	
本社事務所電灯LED化	○	
本社事務所電灯の昼休み・不要エリア消灯	○	
作業・業務の効率化による時間短縮	○	
冷蔵庫・冷凍庫内の整理整頓	○	



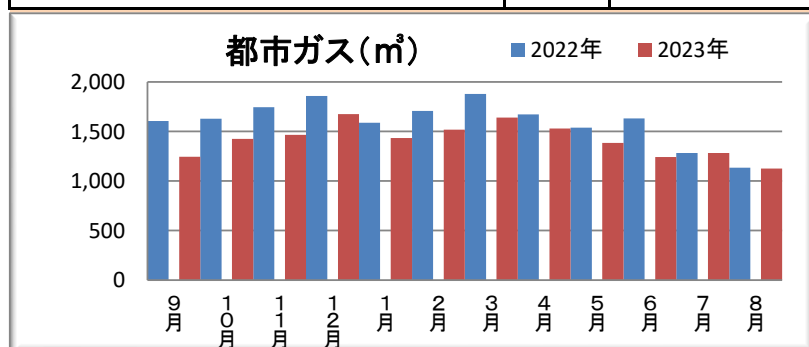
次年度の取組内容

- ☆ 省エネ目標説明
- ☆ 本社事務所以外の電灯LED化
- ☆ 本社事務所電灯の昼休み消灯
- ☆ 八尾での無駄をなくす、作業の工夫

電力使用量 今年度比-1%

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2022年	9,512	5,601	5,038	4,843	5,171	5,262	3,988	5,279	5,475	5,205	8,215	8,562
2023年	8,000	5,676	5,213	4,333	4,742	4,615	4,349	4,554	5,415	5,681	7,384	9,614

都市ガスによる二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価
数値目標	○	平釜で湯を沸かす時に蓋をする、カレー等煮込み系の時は蓋をしてガスの外火を切る、フライヤー使用後はすぐにガスを切る等を実施しているため、それが実際に数字として表れたようだ。今後もこまめな節ガスを実施できるよう呼びかけていきたい。
都市ガス削減目標説明	○	
節ガス運動 展開	○	
平釜の蓋をして調理する	○	



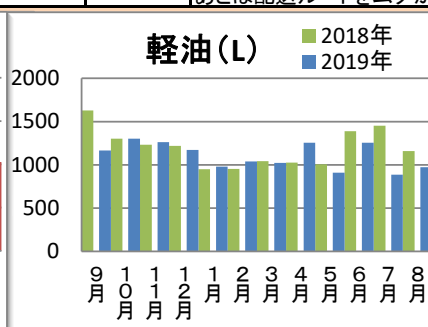
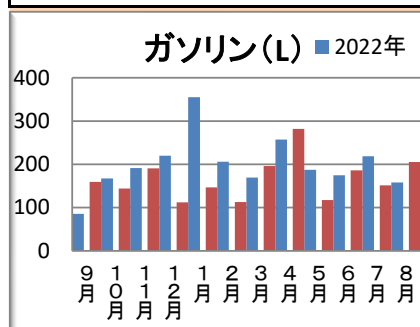
次年度の取組内容

- ☆ 都市ガス削減目標説明
- ☆ 節ガス運動 展開
- ☆ 平釜の蓋をして調理する

ガス使用量 今年度比-1%

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2022年	1,607	1,630	1,746	1,858	1,589	1,708	1,879	1,672	1,538	1,631	1,282	1,136
2023年	1,246	1,426	1,467	1,676	1,433	1,518	1,639	1,529	1,384	1,241	1,282	1,125

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価
数値目標	○	年間でガソリン・軽油の使用量・原単位ともに削減目標を達成できた。これは上半期の評価と同じく、食堂従業員が休んだ時に、欠員応援する人を、本社から以前はほとんど車で送っていたが、電車・自転車で行ってもらうことが多くなった。
・エコドライブ運動	○	また、配送の忘れ物の2度配送を以前より少なくした。
・効率的なルートで配送	○	あとは配送ルートをもたないよう検討を定期的に行っている。
・エリア別営業活動の見直し	○	



次年度の取組内容

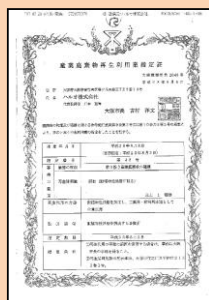
- ☆ エコドライブ運動
- ☆ 効率的なルートで配送
- ☆ エリア別営業活動の見直し
- ☆ 配送ミス(2度配送)の撲滅!
- ☆ 欠員時の作業応援者の派遣見直し
(本当に派遣が必要か、車で行くのが必要か?)

給油量 今年度比-1%

ガソリン	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2022年	85	167	191	220	355	206	169	257	187	175	219	158
2023年	159	144	191	112	147	113	196	282	117	186	151	205
軽油	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2022年	1,627	1,301	1,233	1,218	949	952	1,042	1,027	1,004	1,390	1,453	1,160
2023年	1,166	1,301	1,260	1,172	979	1,038	1,022	1,257	908	1,257	884	971

食品廃棄物の再資源化率の向上	達成状況	取組結果とその評価
数値目標	○	本社でセントラル調理をして現場配送をしている得意先は21件で、そのうち事前に予約をいただいている(一部予約無しを含む)得意先は15件となっている。残り6件について、会議等で事前予約のメリット(食堂来店時に食べたいものがなくなるのが無い)をアピールして、ムダな準備と廃棄を減らしていきたい。
原料の賞味期限切れロスの防止	○	
加工ロスの削減	○	
脱水、乾燥による減量	○	
再資源化先の開拓	○	

取組紹介欄



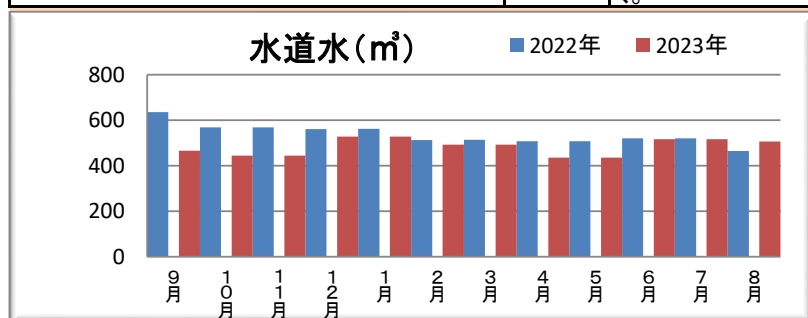
廃油のリサイクル回収(全社)

次年度の取組内容

- ☆ 原料の賞味期限切れロスの防止
- ☆ 加工ロスの削減
- ☆ 脱水、乾燥による減量
- ☆ 再資源化先の開拓

リサイクル率今年度比+1%

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価
数値目標	○	年間を通して、水の使用量は去年に比べて1割削減でき、原単位でも達成することができた。こまめに水を止めたり、水量を出し過ぎないようにしたり、流水冷却・解凍している作業をしないなどいいようにしたりと取り組んだ効果が出たようだ。引き続き実施していく。
水道水 削減目標説明	○	
節水呼びかけ	○	
前日冷蔵解凍による、流水解凍の低減	○	



次年度の取組内容

- ☆ 水道水 削減目標説明
- ☆ 節水呼びかけ
- ☆ 前日冷蔵解凍による、流水解凍の低減

水使用量 今年度比-1%

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2022年	635	568	569	561	562	513	514	508	508	520	520	465
2023年	466	444	445	528	528	492	492	435	435	516	516	507

給食サービスへの環境配慮	達成状況	取組結果とその評価
数 値 目 標	○	2ヶ所工場がある取引先で、大きい方は予約制をしているのに、もう1ヶ所はできておらず、予約制を導入するよう取引先に働きかけているが、実施に至っておらず、引き続き働きかけていく。 (※ 予約制があると、ムダな準備等が少なくなり、ゴミが格段に減る) また、別の取引先の食堂会議にて、お客様の一部から食べたいものが行った時に売り切れていることがあり、予約制を導入したいとの声があり、これを機に予約制を導入できるように訴えていきたい。
業者への通函納品の要請	○	
アンケートによる情報収集(味・分量・準備量など)	0	
準備量の調整【来客データに基く発注量の調整】	○	
準備量の調整【前日注文による売れ残りゼロ化】	○	
昼食提供時の(ご飯などの)個別減量希望対応	○	
加工済食材の使用【ムキ玉葱・冷凍野菜・カット食材等】	○	
洗って繰り返し使用可能な食器類・弁当容器・番重の使用	○	
割れにくく丈夫で洗浄乾燥しやすいメラミン食器の使用	○	
無洗米の使用による水使用量・排水汚濁の低減	○	
予約制導入の働きかけ	○	
裏紙の使用	○	
弁当運搬用段ボールを購入せず、可能な限り番重で運搬する	○	

取組紹介欄



通函での納品・皮を剥いた野菜の使用

次年度の取組内容

- ☆ 業者への通函納品の要請
- ☆ アンケートによる情報収集(味・分量・準備量など)
- ☆ 準備量の調整(来客データに基く発注量の調整)
- ☆ 準備量の調整(前日注文による売れ残りゼロ化)
- ...etc

生産性の向上と働き方の改善	達成状況	取組結果とその評価
数 値 目 標	○	調理師を食堂で雇い、現地で仕入・仕込調理となると人件費が高むので導入の壁は高いが、その形に限りなく近づけるように、パートを教育して実施している。また、現場管理を担当させる新人も教育中。
サテライトクックによる就業時間の改善(検討)	○	
サテライトクックによる稼働率、生産性の改善(検討)	○	
コミュニケーションによる人財育成	○	
サテライトクックの普及拡大、教育訓練(5月から)	○	

取組紹介欄



できたての料理を、すぐに短時間で冷やします！

次年度の取組内容

- ☆ 衛生の確保、向上(運搬時のチルド温度帯の維持、細菌検査による安全の確認など)
- ☆ 味の向上(今作ったものと変わらない、またはチルドにしたほうが味が良いものを目指して開発する)

地域への美化活動の推進	達成状況	取組結果とその評価
数 値 目 標	○	会社の周辺だけでなく、得意先が定期的に来訪いただいているので、会社内外の清掃の習慣もついており、継続できるよう取り組んでいく。
本社近隣(公道・駐車場など)の清掃	○	
公道に面する本社施設の美化	○	

取組紹介欄



会社周辺の清掃(毎日)

次年度の取組内容

- ☆ 本社近隣(公道・駐車場など)の清掃
- ☆ 公道に面する本社施設の美化

歴史ある寺内町にふさわしく、よりよい外観をめざす

もうひとつのSDGsの取組(フタバ給食の取組対象と内容 その2)

SDGs	1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 性別平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に	7 持続可能なエネルギーを	8 働きがい、経済成長、雇用	9 持続可能な産業を	10 人や国の不平等をなくそう	11 持続可能な都市を	12 持続可能な消費と生産	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさを守ろう	16 公正で平和な社会を	17 パートナリシップで目標を達成しよう
フタバ給食の取組対象:○	○	○	○	○						○					○		○



※ 7つの取組対象については、TABLE FOR TWOホームページの内容を基にしています。
(二人のための食卓) の取組

食堂の受託先のひとつである堺食堂で、2014年3月から「TFT弁当」を販売しており、売価のうち、1食あたり20円の寄付を行っています。
平日の昼食で1日20〜30食の販売で、年間約10〜20万円の寄付を行っています。(2023/4/1〜2024/3/31で108,685円でした)

5,434食分

TABLE FOR TWOとは —— (TABLE FOR TWOホームページより) ——

“TABLE FOR TWO”を直訳すると「二人のための食卓」。先進国の私たちと開発途上国の子どもたちが食事を分かち合うというコンセプトです。

世界の約75億人のうち、約10億人が飢餓や栄養失調の問題で苦しむ一方で、20億人近くが肥満など食に起因する生活習慣病をかかえています。

TABLE FOR TWO(TFT)は、世界規模で起きているこの食の不均衡を解消し、開発途上国と先進国双方の人々の健康を同時に改善することをミッションに活動しています。

先進国で1食とるごとに 開発途上国に1食が贈られる TABLE FOR TWO(=TFT)プログラムでは、肥満や生活習慣病予防のためにカロリーを抑えた定食や食品をご購入いただくと、1食につき20円の寄付金が、TFTを通じて開発途上国の子どもの学校給食になります。

20円というのは、開発途上国の給食1食分の金額です。先進国で1食とるごとに開発途上国に1食が贈られるという仕組みです。

1 貧困をなくそう	子どもたちは給食がきっかけとなり教育を受け、貧困から脱するための知識をつけることができます。併せて、地元農家から食材を購入したり、農業の技術指導を行うことで、貧困の解消に貢献しています。	2 飢餓をゼロに	2007年に日本でTABLE FOR TWOが創設されてから10年の間に、累計6,000万食(のべ26万人分)の学校給食をアフリカ・アジアの子どもたちに届け、飢餓の解消に努めています。
3 すべての人に健康と福祉を	先進国の社員食堂や飲食店、スーパー等で健康に配慮したメニューを提供しています。同時に、メニュー代金のうち20円を寄付として頂戴し、開発途上国で栄養豊富な温かい学校給食を提供しています。	4 質の高い教育をみんなに	開発途上国では、学校給食の提供が子どもたちの教育機会に直結しています。学校給食が始まると、就学率・出席率が飛躍的に向上します。50-60%程度から100%近くに上昇するケースがほとんど。
10 人や国の不平等をなくそう	先進国の余剰カロリーを寄付として開発途上国の摂取カロリーに変換する仕組みは、不平等をなくすことにも繋がっています。	15 陸の豊かさを守ろう	給食の調理に薪を使う代わりに、おがくずなどのゴミを再利用して作った固形燃料を使用し、森林の伐採を防いでいます。農業支援では、自生種や固有種の栽培を推奨しています。
17 パートナリシップで目標を達成しよう	先進国では約800の企業・団体と、開発途上国では10団体とパートナーシップを組み、活動を推進しています。	ヘルシー商品 → TFTプログラム参加企業 → 代金 → 寄付 → 学校給食	



環境関連法規等の遵守状況の確認 及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無



法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される対象	遵守状況
廃棄物処理法	一般廃棄物、食品廃棄物	○
食品リサイクル法	食品廃棄物	○
家電リサイクル法	エアコン・冷蔵庫	○
フロン排出抑制法	冷蔵庫・製氷機・エアコン	○
騒音規制法・振動規制法	空気圧縮機	○
消防法	食用油保管場所	○
水質汚濁防止法	廃油保管場所・食用油保管場所	○
顧客要求事項	衛生管理 食堂での節電、節水、廃棄物分別	○
顧客要求事項 (新型コロナ対策)	顧客訪問時のマスク着用、手指のアルコール消毒、検温実施 顧客訪問がお断りされる場合（以上のお願いに協力できない時、 検温して37.5℃以上の時、発熱・咳・全身痛等の体調不良の時、 過去2週間以内の風邪・発熱の発症歴または海外渡航歴のある時）	○

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

食品廃棄物のリサイクル率は当該年度の目標値を達成しました。

なお、関係当局よりの違反、訴訟の指摘は、過去3年間ありませんでした。



緊急事態対応訓練



緊急事態の想定： 火災の発生	
■実施日： 2024年7月20日	■実施場所 本社
■参加者： 5名	■実施内容： ・消火設備の点検、作業者の消火設備の配置確認
■評価：	手順書の変更の必要 ☐ あり ☒ なし
(設置場所) 消火器の横に物を置いてある場所もあったが、全て指定場所に設置していた。 (表示) 全て部屋の端から確認できる。 (場所の把握) 調理場5名に確認し、全員すぐに設置場所を答える事が出来た。 (使用期限) 期限内であった。	

緊急事態の想定： 火災の発生	
■実施日： 2024年9月3日	■実施場所 加美
■参加者： フタバ給食：1名 食堂受託先：約300名	■実施内容： ※ 食堂受託先の訓練参加 ・通報訓練、避難訓練、消火訓練
■評価：	手順書の変更の必要 ☐ あり ☒ なし
(備考) コロナ対策のため、各業者1名ずつ参加となり、小一時間での簡潔な実施となった。 15:07 構内に緊急地震放送。その場で身を守る行動を取る。放送後、火の始末や出口確保の行動を取る 15:10 構内放送で避難指示。参加者代表は指定場所に避難。 15:20 初期消火訓練。水消火器・消火栓による放水訓練に参加。 15:40 解散	

緊急事態の想定： 火災の発生	
■実施日：	■実施場所 堺
■参加者：	■実施内容： 通報訓練、避難訓練、消火訓練
■評価：	あり ☒ なし
2024年の堺の防災訓練はコロナ対策のため、業者を参加させずに、少人数で実施となったため、フタバは不参加であった	



実施日：2024年9月1日

【 前回の指示への取組結果 】

- ◎ 新型コロナ対策に伴う、新たなビジネスモデルの構築について取り組み指示があったが、コロナの対応が落ち着きつつある中、依然として食材費・燃料費の価格上昇が続いており、3年連続で顧客への値上げ交渉を行う異例の事態となった。
仕入先からの値上げ交渉などの対応にも当たりつつ、全ての取引先で値上げを承認頂けた。
物価上昇によるものとは言え、顧客心理からはフタバ給食の商品価値がそのままだと不満につながるので、サテライトクックでの新しいビジネスモデル提案を行い一部顧客先に

< 情 報 >

- ◇ 自社を取り巻く環境問題の変化
(社会的情勢、利害関係者の要求等)

- ◎ 食材費・燃料費の急激な高騰
◎ 新型コロナ発生前に近い来客数回復
および顧客に応じた営業形態の変化
◎ S D G s (持続可能な開発目標) の国連採択

◇ 環境目標・活動計画の達成状況

- ◎ 電力使用量の削減 : 達 成 ○
◎ ガス使用量の削減 : 達 成 ○
◎ 自動車燃料使用量の削減 : 達 成 ○
◎ 食品廃棄物の削減 : 達 成 ○
◎ 水の使用量の削減 : 達 成 ○
◎ 給食サービスへの環境配慮 : 達 成 ○
◎ 生産性の向上と働き方の改善 : 達 成 ○
◎ 地域への美化活動の推進 : 達 成 ○

◇ その他

- ◎ 【顧客からの要請】
一部顧客の新型コロナ対策への協力
(顧客訪問時のマスク着用等)

< 見直し・指示 >

◇ 環境方針

- ◎ 変更点は無し。

◇ 環境目標・活動計画

- ◎ すべて達成となっているが、これはこまめな節電・節ガス等を実施したことによるものであり、来年も達成できるように引き続き取り組んでいくこと
◎ 引き続き取組への協力を従業員に呼びかけることを継続すること

◇ その他

- ◎ 営業・配送・食堂従業員は顧客要望時にはマスクを着用するなど協力する
(マスク未着用が一般的になってきたが病院・福祉施設・保育園等では引き続き厳格な対応が求められているため、気を付けて当たること)

【 今回の評価結果と今後の経営視点 】

- ◎ 今回の評価としては、取組がほぼ全て達成されており、この調子でいってもらいたい。
ただ、新たな取組などが少なかったため、まだまだ二酸化炭素排出量を削減できる余地はある。
◎ 新型コロナは落ち着きつつあるものの、食材費・燃料費の高騰、最低賃金上昇などへの対応を行いつつ、顧客との対話による持続的な経営を実施していかなければならない。
物価上昇などが顕著なため、価格交渉の根拠は説明しやすいが、それに甘んじずに社内でのコスト(電気・ガス・水・無駄な食材)使用量の削減に努めていってもらいたい。



これまでの環境活動の紹介



会社周辺の清掃（毎日）



環境掲示板と環境ポスト



昼休みの事務所消灯



電灯間引き



エアコン温度設定



未使用時のパソコン電源OFF



水使用場所の節水表示



厨房平釜の湯沸し効率化
（熱が逃げないように加熱）



野菜ゴミの飼料化のための分別表示



編集後記



昨年の環境レポートの編集後記でも書きましたが、諸物価高騰と人件費アップによるさまざまな調整に追われた1年（3年連続）でした。

人手不足ではありましたが、少数精鋭のベテランが経験を生かして支えてくれたのもありまして、いろんな局面を乗り越えることができました。

そういった中で、環境負荷のかからない方法（使用していないエリアの消灯や、ムダなガス・水の消費抑制、廃棄ゴミを少なくする等の取組）も忙しい中、実施してくれていました。

今後はそういったノウハウを向上させ、新人教育に取り組んでまいります。

